

の運動を推進した。しかし、その後一部地元民の反対などで着工までに紆余曲折を経、結局、完成されたのは、昭和40年の出水期前である。

さて、昭和33年の狩野川台風時の被害は甚大であった。特に沿岸の農地が埋没あるいは冠水した。狩野川流域は沈降性地形の為山地と平坦部の境界が非常に明瞭になっている、段丘はわずかに東部に発達しているだけである。そのため、平坦部は全域にわたり被害を受けている。ただし、下流部の狭さく地形より河口側の沼津市等では、ほとんど氾濫は起こらない。また、被害の型は上流部・中流部・下流部でかなり異なるし、微地形により多少の差違がみられた。

狩野川台風時の復興状況は、葦山村では翌年に100%となっている。災害後はまた葦山村では、大規模な区画整理がおこなわれ10aの圃場に整備された。それに伴って、交換分合も少しおこなわれたようである。

葦山町は農業が産業全体の根幹として位置づけられており、それは、将来においても、変わることはないだろう。現在は、農業の中では、収量からも収益からも、中心となっているのはイチゴである。これは、もともと米の裏作としてつくられていた麦にとって代わったものであるが、品種改良・栽培技術の進歩により、戦後急速に発達した。また近年は、メロン・トマト・ナス・花卉などが、施設園芸にとり入れられ、発展の兆しをみせている。

三浦半島の海面利用と沿岸集落

竹内由起子

(1) 研究の目的

三浦半島は首都東京の近郊に位置し、その大きな影響下にあるとともに、神奈川県漁業の中心、海洋観光の拠点として、独特な海面利用のみられる地域である。その海面の多様かつ有効な利用は、都心に近接しているという位置的条件に加えて、湾入と砂浜の交互する複雑な海岸線、穏やかな海況、豊かな水産資源といった絶好の自然環境が作用した結果である。本論文では、三浦半島の海面利用の特性と、海に深い関わりをもって展開される沿岸集落の経済活動の諸相を考察することを目的としている。

(2) 研究の枠組

第一章では、地域研究の基礎となる自然、人文環境の概観を述べた。

第二章では、漁業について、県漁業における位置づけというマクロな視点から始めて、次第的にしぼり、最後には半島内各地区ごとの漁業形態分析を行った。その際、近年三浦半島漁業に最も大きな変化をもたらした要因と思われる、わかめ養殖業導入に焦点をあて、昭和40年から52年にわたる12年間の動向把握を中心に論をすすめた。

第三章は、沿海資源に立脚した4種類の観光、海水浴・景勝地遊覧・ヨット・遊漁について、各々の現状と特色を検討した。

続く第四章では、二・三章の理解を踏まえた上で、特色のあるいくつかの地区を選定し、沿岸集落

の具体的経済活動様式を知るべく、考察を試みた。

(3) まとめ

三浦半島の漁業は、昭和46年から52年にかけて、県漁業の全体的衰退傾向を背景として、急速に、神奈川県を中心としてクローズアップされるようになった。県全体の大幅な漁業経営体数減少動向の中で、三浦半島漁業がなお多数の経営体を擁し、高い地位を保っているのは、近年のわかめ養殖業導入と、それに伴う漁業経営の省力化及び安定の故であった。従って、漁業業種構成に目を移すと、経営体総数ではあまり変化のみられなかった三浦半島漁業も、実は内容的に大きな変化をたどっていることがはっきりする。即ち、経営体総数の安定は、わかめ養殖業経営体数が大幅に増えた反面、採貝藻、釣り漁業を主とする経営体が、著しい減少を示し、両者が相殺された結果なのである。栽培漁業の導入によって、小規模な磯資源採取の地位が低下し、また投下労力の大きい釣り漁業の如き漁法が一部地域を除いて顧られなくなるに至ったのは、興味深い現象である。なお、ここ1・2年、わかめ養殖業が停滞気味であることから、今後の三浦半島漁業の動向も注目される。

三浦半島の観光の一大特色は、海水浴に代表される大衆性と、ヨット、別荘に代表される高級階層性といった両極端な二面性を兼備していることであろう。このような観光の二面性こそ、都心に最も密着した三浦半島の如き海洋観光地の特色であり、都市生活者の観光に対する需要の多様性を一カ所に反映した結果でもある。だがその中で、漁業との関連から大きな意味を持つのは、海水浴と遊漁である。ヨットや景勝地遊覧には、漁協によるヨット管理といった一部の例外を除くと、概して漁業者が関与することはない。ヨット、別荘のような高級観光には、地元漁家の零細な資本をもってしては参与する余地が一切ないのである。また一方、漁業労働力を最も大量に吸収し、海面利用を大きく塗り変える観光は、海水浴である。

都市の防災に関する地理学的考察

—東京都港区を例として—

田中直子

港区を対象として、都市の防災について考えてみた。都市の災害には、大火、洪水、高潮、海岸決壊、崖崩れ、地震、地盤沈下などいろいろなものが考えられるが、地震災害を考えればこれらすべてのものが包括できると思うので、地震による災害を中心に考えていくことにする。港区はオープン・スペースが広く、地盤もしっかりしているので比較的安全性の高い地域であるが、次の3点により港区をフィールドとすることに決めた。

1. 地形が複雑である。(台地、低地が入り組んでいて崖が多い。)
2. 古くから発達している。
3. 都市構造が多様化している。(住宅・商業・工業地区が地域的に混在している。)(台地と低地で人々の生活に差がみられる。)

次に論文の内容であるが、

第一章では、港区の概観と防災に関する基礎的要因——自然的要因(1.地形、2.地盤・地質、3.液